

百年の庭整備

3年園芸科

I 目的

- ・百年の庭の印象を更によくし、生えている雑草と植物を調べ、園芸展までに整備を完成させる。
- ・講堂から出てきた人見た庭の印象をよくする。

II 内容

1 区画を作る

場所が広いので、課題研究場所としてわかるように区画を作る。

区画がなく入られてしまっていたので、区画を作り入れられないようにした。

2 雑草を除草

草丈が伸びていたので除草する。ギボウシ、トクサ、フウチソウなどを残して雑草を除去した。

草イチゴは実が食べれるため、園芸展で発表するので、一部残しました。

3 通路したところにチップを敷く

通路にチップを敷いて園芸展の時に歩きやすくすると、雑草発生を防ぐためにチップを敷く。

4 樹木の剪定、水鉢の掃除、排水溝の蓋作成

ミズキ、クマシデ、キンシバイ、サツキ、イボタの剪定。

ミズキは二本除去した。クマシデはアカマツなどに枝が覆いかぶさっていたのと、庭全体に日差しが遮られていたので剪定した。

水鉢はいつも綺麗なほうが見えた方がいいので掃除しました。

排水溝の蓋（グレーチング）と排水溝は四角い形をしており（人口的な部分を自然な感じに見せるために）なので隠すために作成しました。

5 園芸展での庭の説明

来ていただいたお客さんに自分たちの庭を説明、アンケートをとる。

アンケートの目的

(ア) 年代別、男女別を調べる。

(イ) 自分たちが整備したところが、来てくれた人に伝わるか。

(ウ) 庭を見てどう思ったか。

以上のことが知りたくてアンケートを取りました。

アンケートの質問内容は、

① 道は歩きやすかったですか？

② 除草は綺麗にされていましたか？

③ 説明は分かりましたか？（係の説明の含む）

の3項目で、良い、ふつう、悪いの3段階で評価してもらいました。

III 結果

1 課題研究場所としてわかるように区画を設定した。

① 区画の設定をしたことにより入ってくる人はいなくなった。

② 自分たちの意識も変わった。

③ 植物の成長もより感じるようになった。

2 除草の結果

① 通行（利用）する人が多くなった。

② クサイチゴを残したために食べにくる人などがいた。

3 チップを敷いての効果

① 歩きやすい。

② 雑草の発生を抑制できた。

4 剪定したことの効果

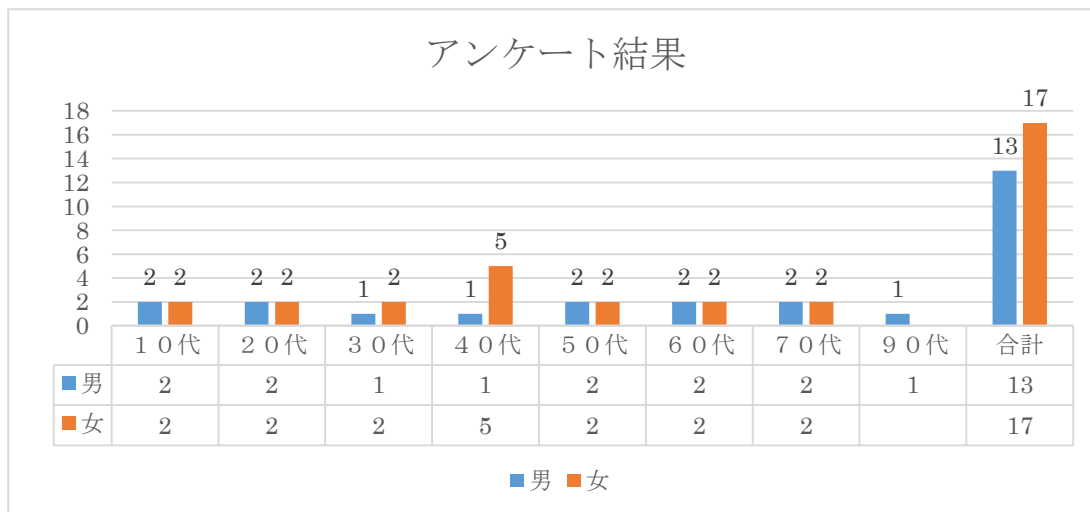
① 綺麗になってなり、下草の低木が元気になった。

- ② 水鉢もとても綺麗にされているなどの声があった。
- ③ 井戸の蓋があることにより自然の風景が損なわれていないという声があった。

5 園芸展での庭の説明

- ① アンケートの結果、10～20代の男女が少ないことに対し40～60代の男女が多いことが分かった。
- ② 説明をしてお客さんから豆知識を教えてもらったりした。
- ③ 1通だけアンケートとは異なることを書いたがいた。

表 1



総合計 30 人となった。

IV 考察

クマシデを剪定したことにより庭全体に光が入り、植物たちに元気が戻ってきた。半年間自分たちがやってきたが、園芸展での発表でまだ細かい部分が行き届いていないことが分かった。アンケートを取って分かったことが、なぜ40～60代の男女が多いのかは、子供連れで来ていただいたのではないかと考える。東京では、庭を造っていたところが駐車場に変わってきているので若い人が少なかったのは、庭に興味がなくなってきているのではないかと思う。

V 反省点と今後の課題

- ・整備前の写真があると比較できてわかりやすい。
- ・食品科販売に並んでいる人たちをもっと百年の庭の中に呼び込む工夫があると良かった。
- ・園芸科、動物科、食品科の人たちが管理していくことにより関心がいくのではないかと思う。

VI 参考文献

- ・花図鑑野草 監修/高橋秀男 発行人/白澤照司 草土出版編集部 出版年 平成10年3月26日第1号発行
- ・野草検索図鑑 編集人/本間三郎 発行人/鈴木泰二 株式会社学習研究社 出版年 1985年2月25日
- ・野草図鑑① 長田武正 株式会社保育社 昭和59年3月15日
- ・雑草手帳 稲垣栄洋 株式会社東京書籍 2014年7月31日